

# よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙興寺

長音山 本誓寺

## 『よろこび』五十二（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

一、宇宙は一つ、総ては本仏意識の現れ。総ての人類の心に宇宙の総てが備わっている。

（本仏の幸福を自分の幸福とする） 一念三千、一即一切

一、宇宙意識本仏は、個と総の意識の調和と進歩を目ざす慈愛の心である。

（自他の進歩と調和に寄与する事を自分幸福とする）

一、総ての意識はつながりあっている（他の人の成長幸福は自分の幸福である） 十界互具

一、宇宙の全存在は因果、縁起の法則に従う（宇宙の全存在は協力して幸福の達成に努力する）

一、想いが創造の原因（まず幸福への祈りが大切） 一念三千

ここで幸福は宇宙意識、他者の幸福と密接に関係することが分かる。幸福は宇宙の全存在への感謝と報恩の行為の因果、縁起の法則に則る大循環により達成される。

こうなってくると幸福は、個人的満足より、宇宙意識の満足が本質ということになる。人は次第に成長すると一生懸命追求してきた個人的肉体的満足より本仏大我の幸福が大切となり、自分の不幸に左右されない精神となる。



## みおしえ

「マガバリー（インドラ神）は、つとめはげんだので、神々の中で最高の者となった。つとめ励むことを人々はほめた。あたえる。放逸なることは非難される。（法句經三十中村元訳）」

仏教においては釈迦提桓因陀羅（Śakra-devānām-īndra）と音訳され、帝釈天と訳されて信仰される。

インドラは初期のヒンドゥー教において最も重要な視された神で、「リグ・ヴェーダ」では彼に捧げられた讃歌が全体の四分の一をしめる。

その神性は英雄神、軍神、降雨や嵐を司る雷神で、初期ヴェーダでは雷神としての性格が顕著である。

インドラは茶褐色の頭髪と髭を持ち、暴風の化身マルト神群を従えて二頭立ての戦車に乗って空を駆けける。メール山の頂上、インドラ天に住み、彼は神酒ソーマを痛飲し、ヴァジュラ（金剛杵、雷霆）を投じて悪魔を退治し人々を守る。（ピクシブ百科事典）

神々の帝王であるインドラでさえ精進して最高の神となった。まして私たちには精進努力が大切である。

## 心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え  
精進し神性を高めよう  
インドラ神のように

